



カトリック八尾教会ニュース 2025年2月

【今月の予定】

ミサの時間

Tháng hai

1日(土)「福者ユスト高山右近殉教者列聖祈願の集い」(玉造マリア大聖堂にて)

2日(日・祝)主の奉献 7:00

10:00

「小教区評議会」

3日(月・記)福者ユスト高山右近殉教者

5日(水)日本26聖人殉教者

9日(日)年間第5主日 7:00

↳新教会建設献金の日(献金) 10:00

11日(火)世界病者の日

15日(土)初聖体勉強会 14:00

信仰講座 16:00

16日(日)年間第6主日 7:00

10:00

「病者のための祈りの集い」

ベトナム語ミサ 15:00

23日(日)年間第7主日 7:00

10:00

「南地区宣教評議会」14時、八尾教会

「子どもとともにささげるミサ」

【平日のミサ】 木曜日 10:00 : 13日(6日、20日、27日はお休み)



■古い枝を回収します！

玄関ホールに箱を設置しますので、2/23(日)までに古い枝をお持ちください。(典礼委員会)



■世界病者の日(2月11日)

「世界病者の日」は、聖ヨハネ・パウロ二世によって1993年から始まりました。この日は「ルルドの聖母の記念日」にあたります。毎年「世界病者の日」には、教皇メッセージが発表されます。病者がふさわしい援助を受けられるように、また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な援助を得られるように、カトリックの医療関係者だけでなく、広く社会一般に訴えていかなければなりません。



➡病者訪問活動

当教会も教会に来れない病者の方、ご高齢の方へ訪問活動を行っています。施設やご自宅などご依頼に応じて訪問をしています。訪問を

希望される方がおられましたら、司祭又は訪問チームスタッフまでご連絡ください。また、訪問活動奉仕者も募集しています。

→病者のための祈りの集い

訪問活動と合わせ、病気で苦しんでいる人々を想い、病気の快復を願って、聖母マリアの祈りを捧げています。ご参加お待ちしております。

■信仰講座の案内

*毎月 第三土曜日 16時～18時

(※月により週が変更になる場合もあり、ご確認ください。)

*崔神父様の指導のもと、大人中心の聖書の勉強会です。

これまで、創世記、コヘレトの言葉、ルツ記、ヨブ記を読んできました。今は使徒言行録を読んでいます。聖書に興味のある方はどなたでも、参加できます。お待ちしております。



■2025年聖年をあゆむ



聖年とは？ 聖年の成り立ち： 聖年は英語でJubileeと呼ばれますが、その由来はJobel (ヨベル) の年です。レビ記の規定には、畑を6年使って7年目は休耕とし、その7年を7回(7は聖なる数字)繰り返し後、「五十年目の年を聖別し、全住民に解放の宣言をする。それが、ヨベルの年である」(レビ記25:10)とあります。この年には、土地は原則として所有者に返され、負債は免除され、奴隷は解放されるなど、言わば大恩赦の年でした。だからこそ、聖年は何よりも〈解放の年〉なのです・・・略

聖年のキーワードその1：免償 ヨベルの年を起源とする聖年の最大の特徴は、免償、しかもすべての償いを赦免する全免償です。順序だてて説明しましょう。

〈免償とは〉すでに赦された罪に対する有限の罰の神の前におけるゆるしです。ふさわしい心構えを有し、一定の条件を果たすとき、これを獲得できます。免償には、有限の罰からの解放が部分的であるか全体的であるかによって、部分免償と全免償とに分けられます。(『カトリック教会のカテキズム』より) ゆるしの秘跡を受ける際に「償いとして...」と言われますが、それが犯した罪の償いに十分かどうかは分かりません。死を迎える際に償いを果たし終えていなければ、煉獄で一定期間過ごすこととなります。

〈全免償とは〉すべての償いを一気になくす全免償については次のように定められています。受けられるのは1日に1回のみ。(死が差し迫っている場合は、別にさらに全免償を享受するこ

とができる。) そのための条件として、信者は恵みの状態にある(大罪の状態にない) ことが必要とされ、さらに次の条件を満たしていなければなりません。①どんな小さな罪をも避ける決心を持ち、全免償を受けたいとの望みを持つこと。②ゆるしの秘跡に与ること。③聖体拝領をすること。④教皇の意向のために祈ること。上記の四つの条件は、免償が与えられるその日にすべてを満たすことが望ましいとされますが少なくとも免償が付与される前後約20日以内にすべてが満たされていればそれで十分とされます。教皇の意向のための祈りについては信者が自由に選択できますが、「主の祈り」1回と「アヴェ・マリアの祈り」1回が勧められます。同時期に異なる全免償を得るためには、ゆるしの秘跡は1回のみで十分(つまり、月に1度ゆるしの秘跡に与ってれば、条件をずっと満たしていることになる)とされますが、聖体拝領ならびに教皇の意向のための祈りはそれぞれ免償ごとに果たす必要があります。

これらの条件を満たした上で、全免償のために規定された行いをするによって、自分あるいは死者のための全免償を受けられます。全免償を譲り受けた死者は、すぐに天国に行けるということです。全免償のために規定された行いは数多くあります。例えば、十字架の道行きや家族でロザリオの祈りを唱える、三日間以上の黙想会に与る、などです。

〈聖年の免償〉聖年にあたって、内赦院は免償の特別な規定を公表します。聖年のすごいところは、ほぼあらゆる信心の行為や慈善のわざが全免償となることです。ローマを始めとした巡礼指定教会に巡礼することが基本ではあるものの、次のように規定されています。「重大な理由でさまざまな荘厳な典礼への参加や、巡礼や聖なる訪問ができない信者(とくに男女の隠世修道者、高齢者、病者、受刑者、また、病院や他の看護施設で継続的に病者に奉仕する人々)は、同じ条件のもとに聖年の免償を受けることができます。...そばにいる信者と心一つにし、自宅または自分がとどまらなければならない場所(たとえば、隠世修道院、病院、看護施設、刑務所の礼拝堂)で、主の祈り、認可されたかたちでの信仰宣言、聖年の目的にかなう他の祈りを唱え、自分たちの苦しみと生活の困難をささげること」「信者は、困窮や困難のうちにある兄弟(病者、受刑者、孤独な高齢者、障害者...)をふさわしい頻度で訪問することにより、聖年の免償を受けることができます。...信者は間違いなく、聖年の期間中このような訪問を繰り返すことにより、毎日でも、そのつど全免償を受けることができます」このようにして、自分自身が罪の償いから、また特に煉獄にいる死者がその償いから(解放される)恵みの年が聖年なのです。(教区H.Pより)

” What a wonderful world ”

崔 周永神父

長い不眠の時間が終わった。韓国の大統領がようやく捕まり、捜査を受けることになり、恐らく、いや、ほぼ間違いなく拘束されるだろう。そして、生きている間、ずっと牢に繋がっているだろう。去年の12月3日の非常戒厳から今年の1月15日午前までよく眠れなかった。母国が実に危機の状況だったため、酷い独裁者により法治というものが蹂躪されっぱなしの状態、何

とも言えないいたたまれなさ^{うっぷん かん}と鬱憤を感じていた。韓国人^{かんこくじん}の殆ど^{ほとん}が、5千2百万人^{せん ひゃくまんにん}が同じ心境^{おな しんきょう}で辛い時間^{つら じかん}を余儀^{よぎ}なくされた。そのストレス^{そうりょう}の総量^{はか}！それを測ろうとしたら、どの位の量^{くらい りょう}になるだろう。一人^{ひとり}の頑固^{がんこ}な人間^{にんげん}により、周り^{まわ}の人々^{ひとびと}どころか国民全体^{こくみんぜんたい}が途轍^{とてつ}もなく大きいストレス^{おお}を感じてしまう状況^{じょうきょう}。そのばかばかしさ^いと言ったら！12月3日^{がつ にち}、理性^{りせい}を失った大統領^{うしな だいてうりょう}による非常^{ひじょう}戒厳^{かいげん}が宣言^{せんげん}されたとき^{わか}、一刻^{いっこく}も早く^{はや}韓国^{かんこく}に、韓国^{かんこく}の国会^{こっかい}に駆け付けた^か。その夜^{よる}、韓国^{かんこく}の市民^{しみん}達は国会^{こっかい}のある汝矣島^か（ヨイド）に駆け付けては、軍人^{ぐんじん}達の国会^{こっかい}への進入^{しんにゅう}を必死^{ひっし}で阻止^{そし}した。そのため、戒厳軍^{かいげんぐん}は結局^{けっきよく}遅れて国会^{こっかい}に押し入って^おは、また其処^{そこ}で市民^{しみん}達と国会^{こっかい}関係者^{かんけいしゃ}達の抵抗^{ていこう}に出くわす。指揮^{しき}を取っていた軍指揮官^{ぐんしきかん}達と違い^{ちが}、兵士^{へいし}達は不当^{ふとう}な命令^{めいれい}に従わ^{したが}ず、大変^{たいへん}消極^{しょうきよく}的に振る舞^ふっていた。1980年^{ねん}の光州^{こうしゅう}の戒厳軍^{かいげんぐん}のそれとは雲泥^{うんでい}の差^さだった。奇跡^{きせき}のように集まった^{あつ}国会議員^{こっかいぎいん}達の議決^{ぎけつ}により、戒厳解除^{かいげんかいじょ}が可決^{かけつ}され、非常戒厳^{ひじょうかいげん}は終結^{しゅうけつ}したが、憲法^{けんぽう}を無視^{むし}しての戒厳^{かいげん}を発令^{はつれい}した大統領^{だいてうりょう}は弾劾^{たまがい}訴追^{そつい}された上^{うえ}、内乱罪^{ないらんざい}でようやく1月15日^{げいさつ}に警察^{つか}に捕まった^{つか}のだ。民主主義^{みんしゅしゆぎ}が、法治主義^{ほうちしゆぎ}が勝った^かのだ。

韓国^{かんこく}のドラマは面白い^{おもしろ}と言われる。その理由^{りゆう}はお互^{たが}に激しくぶつかり合う^{はげ}からだ。何処^{どこ}までも徹底^{てってい}して、自分^{じぶん}を出し切^だってしまう^きからだ。隣^{となり}の国^{くに}なのに、日本^{にほん}の方々^{かたがた}の目^めにはかなりの違和感^{いわかん}を感じさせる^{かん}だろう。文化^{ぶんか}の違い^{ちが}により、私たち^{わたし}人間^{にんげん}の振る舞^ふいや考え方^{かんが}は違^{ちが}ってくる。日本^{にほん}と韓国^{かんこく}、長い長い歴史^{れきし}の付き合い^{つきあ}いがあり、一言^{ひとこと}で言いきれない複雑^いな感情^{ふくざつ}を抱かせる^{かんじょう}関係^{いだ}の両国^{かんけい}、これから^{りょうこく}はどのような歴史^{れきし}を刻みながら進^{すす}むだろうか。確かな^{たし}のは、人間^{にんげん}の歴史^{れきし}は決して^き決ま^{けつ}ってないことだ。

それに、善意^{ぜんい}を持っている^も普通^{ふつう}の市民^{しみん}により歴史^{れきし}の巨大^{きょだい}な流れ^{なが}は変^かわって行くのだ。そのため^{ため}には、健全^{けんぜん}な判断^{はんだん}ができるように^{ふだん}普段^{ちてき}から知的訓練^{ちてきくんれん}を怠^{おこた}っては^おいけない。愚かな^{おろ}声^{こえ}に、戦^{たたか}いを唆^そすプロパガンダ^{はんたい}に反対^{はんたい}できる^たために！

成人^{せいじん}された皆様^{みなさま}、
人生^{じんせい}の中^{なか}、賢明^{けんめい}に良い^よものが選^{せん}択^{たく}できる^{せつ}ことを切^いに祈^{いの}るばかりである。
ようこそ、大人^{おとな}の世界^{せかい}に。

